

令和4年9月定例会 総務委員会（事前）

令和4年9月9日（金）

〔委員会の概要 政策創造部関係〕

増富委員長

休憩前に引き続き、委員会を開会いたします。（11時14分）

これより、政策創造部関係の調査を行います。

この際、政策創造部関係の9月定例会提出予定議案について理事者側から説明を願うとともに、報告事項があればこれを受けることにいたします。

【提出予定議案】（説明資料（その2））

- 議案第2号 令和4年度徳島県一般会計補正予算（第7号）

【報告事項】

- 「新たな総合計画」に係る県民等意見聴取の取組について（資料1）
- 大阪・関西万博に向けた検討状況について（資料2）
- 地方大学・地域産業創生事業における取組状況について（資料3）

村山政策創造部長

9月定例会に提出を予定いたしております政策創造部関係の案件につきまして、御説明申し上げます。

お手元の総務委員会説明資料（その2）の1ページを御覧ください。

令和4年度一般会計補正予算案でございます。

まず、一般会計の補正総額は、総括表一番下の計欄、左から3列目に記載のとおり2,000万円を計上しております。補正後の予算総額はその右の欄のとおり68億4,609万7,000円となっております。補正額の財源につきましては、財源内訳欄の括弧内に記載のとおりでございます。

2ページを御覧ください。

課別の主要事項につきまして、御説明申し上げます。

万博推進課でございます。

上から2番目の計画調査費の摘要欄①地方創生の深化のための支援費のア、「バーチャルパビリオン」×「リアルイベント」モデル実装事業につきましては、インターネット上の3次元仮想交流空間メタバースを活用したとくしまバーチャルパビリオンにおいて、リアルイベントと連動したバーチャルイベントを企画、開催し、リアルとバーチャルの双方向で国内外の交流を促進するとともに、バーチャルパビリオン内に設けた徳島の観光情報や物産紹介サイトへのリンクをはじめ、メタバース空間と実際の経済活動の相乗効果を生み出す仕組みを実装する経費として2,000万円を計上いたしております。

補正後の万博推進課予算総額は、1億5,065万1,000円となっております。

提出予定案件の説明は、以上でございます。

続きまして、この際、3点御報告申し上げます。

1点目は、新たな総合計画に係る県民等意見聴取の取組についてでございます。

お手元の資料1を御覧ください。

さきの6月議会で御報告させていただいたとおり、現行の「未知への挑戦」とくしま行動計画が今年度をもって計画期間の満了を迎えることから、県では新たな総合計画の策定作業を進めております。

これまでの取組として、県民の皆様が描く徳島の未来への思いや夢を新たな計画に反映していくため、5月から6月にかけて、県民の皆様を対象としたアイデア募集型パブリックコメントや高校生、大学生等に加え、オープンとくしまe-モニターを対象としたアンケート調査、県内3圏域において、高校生、大学生や地域の方々等と徳島の将来像について意見を交わす、対話集会新未来セッションNEOのオンライン開催を実施し、2,600件を超える御意見を頂きました。

現在、これらの御意見を踏まえながら、新たな総合計画を構成するおおむね40年先の将来像をお示しする長期ビジョンと、おおむね10年先の実現を目指す戦略、中期プランについて鋭意検討を行っているところであり、今議会の付託委員会にその骨子案などをお示しし、御論議いただきたいと考えております。

2点目は、大阪・関西万博に向けた検討状況についてでございます。

お手元の資料2を御覧ください。

産学官金労言各界から御参画いただいている大阪・関西万博とくしま挙県一致協議会につきまして、去る7月15日に開催し、万博会場での展示や、県内での事業展開、開幕に先行した機運醸成、魅力発信について取りまとめた徳島「まるごとパビリオン」基本計画（仮称）骨子案への御意見を頂きますとともに、分野ごとにより詳細な議論を行うため、産業・未来技術、誘客、機運醸成・魅力発信の三つの検討部会を設置したところであります。

協議会にお諮りした基本計画骨子案は、資料2の2ページ以降に掲載しておりますが、その概要につきまして、1ページの囲みの中に記載しております。

まず、1、関西広域連合パビリオン「徳島パビリオン」出展計画では、テーマをGATEWAYとし、万博会場のパビリオンが徳島への玄関口、そして持続可能な未来への玄関口を目指すとしております。

コンテンツの基本的な考え方としましては、未来技術のショーケースとして、次世代の光や8K活用の最先端医療技術、バーチャル観光体験、SDGsライフスタイルの提案として、エシカル消費や水素などSDGs先進県、徳島モデルの体験・発信、リアル×バーチャル×未来技術のシナジー展開として、徳島の強みの体験による来訪の期待感醸成や、会場の催事等との連携による相乗効果などとしており、これらを県内で展開する徳島「まるごとパビリオン」と連携させてまいります。

2、徳島「まるごとパビリオン」（全県展開）計画では、テーマを多様な人々をSDGsでおもてなしするお接待文化、徳島をまるごと体感としております。

コンテンツの基本的な考え方としましては、未来技術、新技術の実装フィールドとして、未来を感じる体験コンテンツや、通信環境の充実によるワーケーションの促進、観光、ビジネス展開として、にぎわいコンテンツによる誘客促進やリアル・バーチャルの商談会などによる新ビジネス展開、徳島ならではのライフスタイルの体験として、SDGs

を巡り、学ぶ旅S-T R I Pや、農業の生産者、マイスターなど、徳島が誇る人を巡る旅、シナジー展開として、未来技術による利便性の向上やメタバース上での観光、文化体験などとしております。

3、機運醸成・魅力発信計画では、テーマを、県民が参画し、県民が創る万博、徳島の自然と、人・モノ・コト、いのちまるごと輝く発信展開！としており、取組の基本的な考え方としましては、まず、県民総活躍の万博への機運醸成として、ダイバーシティの理念による万博参画や徳島版ホストタウンの展開、SDGsに係る人材育成、持続可能な未来に挑み続ける徳島の発信展開として、SDGs活動や、新たなチャレンジを推進する仕組みづくり、人にフォーカスした魅力発信、シナジー展開として、万博本体や国、関西広域連合、市町村等の関係機関との連携による相乗効果などとしております。

今後のスケジュールといたしましては、この基本計画骨子案を基に三つの検討部会で議論を重ね、年明けには基本計画案を取りまとめたと考えております。

3点目は、地方大学・地域産業創生事業における取組状況についてでございます。

お手元の資料3を御覧ください。

1、事業概要でございますが、この事業は平成30年度から令和9年度までを事業期間とし、波長ごとに様々な特徴、応用分野を有する次世代の光の活用により、研究開発、応用製品等の事業化と光応用専門人材の育成を推進することで、魅力ある大学づくりと、光関連産業の振興、雇用創出を図る事業でございます。

2、事業の進捗でございますが、（1）研究開発・事業化においては、徳島大学ポストLEDフォトリクス研究所、pLEDを研究開発拠点の中心として、次世代光である深紫外光、赤外光、テラヘルツ光に関する先端的な研究をはじめ、医光／医工融合分野や機能性LED、レーザー技術も含めた応用製品開発が進んでおり、例えば深紫外を活用したドアノブ自動殺菌装置の製品化などの成果を上げているところでございます。

また、（2）光応用専門人材の育成においては、テクニオンーイスラエル工科大学のノーベル化学賞受賞者による海外特別講演会等を実施したほか、徳島大学においては、地方創生に向けた特例的な定員増の選定を頂き、令和5年4月からの高度人材育成プログラム、医光／医工融合プログラムの新設などを行うこととしております。

3、今後の予定でございますが、今年度をもって10年計画の折り返し地点を迎え、県民や企業の皆様により実感できる成果の創出を目指すことはもとより、重点テーマの取組の加速化や産学官連携体制の強化など、更なる成果の高度化を目指し、全力で取り組んでまいります。

提出予定案件及び報告事項の説明は、以上でございます。

よろしく御審議賜りますよう、お願い申し上げます。

増富委員長

次に、関西広域連合議会議員の岡本委員から、関西広域連合議会の活動状況について報告を受けたいと思います。

【報告事項】

- 関西広域連合議会について

岡本委員

それでは、前回の報告に引き続き、関西広域連合議会の活動について、その概要を報告いたします。

まず、6月25日に大阪市において6月臨時会が開催されました。

当日、議長及び副議長の選挙が行われ、議長には和歌山県の井出議員が、副議長には私が選出されました。

また、広域連合長から令和4年度関西広域連合一般会計補正予算（第1号）の件など3件の議案が提出され、原案どおり可決、同意されました。

その後、一般質問が行われ、本県からは浪越議員が、関西におけるスタートアップ支援について、関西広域連合におけるドクターヘリ事業の成果と今後の目指す姿について、この2点に関して理事者の見解をただしたところであります。その他の議員からは、関西広域連合第5期広域計画について、観光振興策について、公共交通についてなどの質問がなされました。

次に、8月25日に関西広域連合本部において開催されました8月定例会についてであります。

まず、広域連合長から令和3年度関西広域連合一般会計歳入歳出決算認定の件など4件の議案が提出されました。

その後、一般質問が行われ、本県からは山西副委員長が、文化庁移転について、ジオパークの海外向けプロモーションの推進について、この2点に関して理事者の見解をただしたところであります。その他の議員からは、空飛ぶクルマのドクターヘリへの活用について、大阪・関西万博とパビリオン出展計画について、ワールドマスターズゲームズ2027関西の開催についてなどの質問がなされましたが、私が聞く限り、山西副委員長の質問が明瞭で一番よかったなと思っております。

報告は、以上であります。

増富委員長

関連して、理事者において説明又は報告すべき事項があればこれを受けたいと思いません。

【報告事項】

- 関西広域連合委員会について（資料4）

村山政策創造部長

関西広域連合委員会に関しまして、御報告をさせていただきます。

お手元の資料4を御覧ください。

6月定例会における御報告後、令和4年6月25日から8月25日までの間に計3回の委員会が開催され、主に関西圏域における新型コロナウイルス感染症への対応等に関して協議がなされておりますので、主な協議内容について御説明させていただきます。

1 ページを御覧ください。

6月25日、第32回関西広域連合新型コロナウイルス感染症対策本部会議を兼ねて実施された、第143回関西広域連合委員会での協議内容についてでございます。

新型コロナウイルス感染症への関西広域連合各構成府県市の対応状況等について情報共有を行うとともに、関西の府県市民に対し、感染予防に努めながら地域のにぎわいを取り戻すため、社会経済活動との両立を図りつつ、積極的なワクチン接種や基本的な感染対策の徹底を呼び掛ける関西・感染防止と社会経済活動の両立宣言の発出を決定しました。

次に、3ページを御覧ください。

7月21日、第33回関西広域連合新型コロナウイルス感染症対策本部会議を兼ねて実施された、第144回関西広域連合委員会におきましては、7月に入り、新規陽性者数が急速に増加している現状を踏まえ、府県市民に対しリスクの高い行動を回避するとともに、積極的なワクチン接種を呼び掛ける関西・夏の感染予防徹底宣言の発出を決定いたしました。

次に、5ページを御覧ください。

8月25日、第35回関西広域連合新型コロナウイルス感染症対策本部会議を兼ねて実施された、第145回関西広域連合委員会での協議内容についてでございます。

新規陽性者数が依然高い水準で推移している現状を踏まえ、関西の府県市民に対し、基本的な感染対策の徹底等とともに、医療のひっ迫を抑えるため保健医療機関等の負荷軽減に向けた取組への協力を呼び掛ける関西・第7波を拡大させない徹底宣言の発出を決定しました。

関西広域連合委員会に関する御報告は、以上でございます。

よろしくお願い申し上げます。

増富委員長

以上で説明等は終わりました。

これより質疑に入ります。

それでは、質疑をどうぞ。

北島委員

先ほど部長から御報告がございました資料1の新たな総合計画に係る県民等意見聴取の取組について教えていただきたいんです。

御報告では、今度の付託委員会で長期ビジョンと中期プランの骨子案を示していただくということですが、今後、この総合計画は徳島県の将来を見据えた非常に重要な計画になると思います。その重要な計画のいわゆる根拠となるのがこの寄せられた多くの御意見だと思います。

今回2,600件を超える意見を頂いたということですが、やはりこの中身の重要性というのが非常に大事ななと思いますので、具体的にどういった御意見があったのかについて教えていただけますでしょうか。

川人総合政策課長

ただいま北島委員から、新たな総合計画の策定に係る県民等の意見聴取に関しまして、

どのような御意見があったのかという御質問を頂いたところでございます。

県民の皆様が描きます徳島の将来に対する思いや夢を新たな総合計画に反映させていくため、本年5月から6月にかけてアイディア募集型のパブリックコメント、高校生、大学生等へのアンケートを実施したほか、徳島の将来像について、高校生、大学生や地域の方々などに御意見を頂く対話集会「新未来セッションNEO・2022」を開催いたしました。2,600件を超える御意見を頂いたところでございます。

今回の意見聴取に当たりましては、新たにオープンとくしまe-モニターの皆様方にアンケートに加わっていただいたほか、対話集会では、特別支援学校の高等部の生徒さんにも御参加を頂くなど対象者を拡大したところでございます。

また、対話集会の開催につきましては、オンラインの手法を用いまして開催することでより多くの学校に参加を頂いたことなどにより、前回の4年前を上回る数の御意見、御回答を頂いたところでございます。

今回行いました意見聴取では、県民の皆様から県政各分野にわたり様々な御意見を頂いており、その一例を申し上げますと、子育て、ダイバーシティの分野であります。地域のコミュニティがしっかりと、安心して子育てができる。お互いを認め合い尊重できる。また、防災、減災、国土強靱化の分野では、地域全体で防災対策ができています。平時、災害時の活動をフェーズフリーにし災害対応力を高めています。環境エネルギーの分野では、森林の適正管理が図られ、持続的な生物多様性が確保されています。再生可能エネルギーの安定供給と資源の再利用が進んでいるといったような、徳島の将来像についての御意見を頂いているところでございます。

北島委員

今回の意見聴取については、e-モニターであるとか特別支援学校の高等部の方々、また、オンラインという形で工夫をしていただいて、前回よりも多くの意見を頂いたということが分かりました。

しかしながら、今回特に、計画が策定された4年前と比べると当時と大きく変わったのは、やっぱりこの新型コロナにより社会情勢が非常に大きく変化し、生活様式も大きく変わったということですが、そういった社会情勢の変化を反映した御意見もあったのかどうか、教えていただけますでしょうか。

川人総合政策課長

ただいま北島委員から、新型コロナウイルス感染症など社会情勢の変化を踏まえた御意見があったのかという御質問を頂きました。

新型コロナウイルス感染症への対応から、強靱な医療提供体制の構築を求める御意見はもとより、コロナ下により導入が進んできましたテレワークやオンライン教育の普及、また、接触機会の低減としても注目されておりますキャッシュレスの推進など、デジタル社会の実現に向けた御意見などに加えまして、人口が集中する大都市部における感染症への脆弱性が露呈したことによる地方回帰の機運が高まったことを受けまして、サテライトオフィスの誘致促進、また、LEDなど徳島の得意分野を生かした地元大学の魅力向上など、新たな人の流れづくりに関する御意見も頂いているという状況でございます。

また、このほかにも世界規模で取組が求められております2050年までの実現を目指すカーボンニュートラルや、2030年達成を掲げておりますSDGsなど、時代の潮流を捉えたキーワードを含む御意見なども頂いているところでございます。

現在これらの御意見を踏まえつつ、新たな総合計画を構成するおおむね40年先の将来像をお示しする長期ビジョン、それからおおむね10年先の実現を目指す戦略となる中期プランにつきまして検討を行っているところでございまして、それらの骨子案を付託委員会においてお示しさせていただき、御論議を頂ければと考えているところでございます。

北島委員

やはりコロナの影響又は時代の流れで、例えば、2050年のカーボンニュートラル、2030年のSDGsの達成といった新たな意見というのが増えてきたということです。

特に、このSDGsの達成に向けては、この前報道がございましたけれども、先日の7日に官民が連携した徳島SDGsプラットフォームが設立されたということです。今回新たに策定される総合計画に当たり、こういった多くの県民の皆様の御意見を適正にしっかりと反映をしていただきまして、徳島の将来の目標をしっかりと展望した計画ができますよう要望いたしまして質問を終わります。

岡本委員

6月に続いて、大阪・関西万博について、少しお伺いいたします。

さっきお話のあった挙県一致協議会についてお伺いいたします。

私は商工会連合会の会長という立場でその席にもいたのでそれなりには分かっているつもりなんです。やっぱり総務委員会の中でもう少し詳しく説明いただいたほうがいいのかなと思いますので、よろしくお願ひします。

奈良万博推進課長

ただいま岡本委員より、基本計画の骨子をもう少し詳しくという御質問を頂戴いたしました。

大阪・関西万博に向けまして、本県のコンセプトであります、万博は「ゲートウェイ」、徳島「まるごとパビリオン」～県民が参画し、県民が創る万博～を具現化した取組を進めるため、徳島「まるごとパビリオン」基本計画を策定することとしておりまして、その骨子につきまして、去る7月15日に開催いたしました「大阪・関西万博」とくしま挙県一致協議会の中で御議論し、御承認を頂いたところでございます。

この基本計画の骨子につきましては、万博会場での展示や徳島県内での事業展開、開幕に先行した機運醸成、魅力発信の取組についてそれぞれ具体化をするために、関西広域連合パビリオンへの徳島パビリオン出展計画、それから、徳島「まるごとパビリオン」の全県展開計画、それと機運醸成、魅力発信計画の3本柱による構成とさせていただいているところでございます。

内容といたしましては、先ほど部長からも説明させていただきましたけれども、次世代の光pLEDや、8K活用の医療技術などの未来技術、エシカル消費をはじめ、SDGs先進県徳島のライフスタイルを体験できるS-T R I P、バーチャルパビリオンと相性の

良い分野を活用した魅力発信など、世界の一步先に行く徳島の強みを生かしたコンテンツにより積極的に展開してまいりたいと考えております。

8月から挙県一致協議会の下に、産業・未来技術、誘客、機運醸成・魅力発信という三つの検討部会を設置いたしまして、現在も基本計画の骨子を基に議論を進めているところでございまして、万博本番で徳島の存在感を世界に向けて発信できるよう引き続きしっかりと取り組んでまいりたいと考えております。

岡本委員

検討部会を三つ設けて議論をやっているということなのですが、今どういった構成で、どのような意見が出ているのかというのは、やっぱり議会も知っておいたほうがいいのかと思います。

奈良万博推進課長

ただいま岡本委員から、検討部会の構成とどのような意見が出ているかとの御質問を頂戴いたしました。

三つの検討部会につきましては、挙県一致協議会に参画されている団体で各分野に関わりの深い方々に加えまして、専門的な知見をお持ちの有識者や県内外の企業などに御参加を頂き、議論を進めておるところでございます。

検討部会は、これまでに8月中旬と9月上旬の2回開催いたしまして、基本計画骨子の具体化に向けて、コンテンツの内容をはじめ目標とする指標やターゲットについて議論を進めているところでございます。委員の皆様からは、パビリオンに会場した方に徳島に行きたいと思ってもらえる内容にしていきたい、新しい技術と伝統文化を掛け合わせた展示やSDGsの観点を持った展示はどうか、徳島を強くアピールするものにしては、などの御意見を頂戴しているところでございます。

検討部会につきましては、月1回程度開催いたしまして、年明けには基本計画の案を取りまとめる予定としておりまして、引き続きしっかりと取り組んでまいりたいと考えております。

岡本委員

年内ということで結構忙しいと思うんです。でも、僕はいつも言っているんだけど、今が一番大事なときであって、正に今なんです。その点はしっかり頑張ってもらいたいと思います。

それから、補正予算についても少しだけお聞きいたします。

「バーチャルパビリオン」×「リアルイベントモデル実装事業」、片仮名ばかりで分かりにくいんですが、事業内容について、もう少し詳しく説明いただけたらと思います。

奈良万博推進課長

ただいま岡本委員より、補正予算の事業内容についての御質問を頂戴いたしました。

万博による効果を最大限に発現させるためには、早い段階からの機運醸成と魅力発信が重要と考えておりまして、今回御報告しております基本計画の骨子においても3本柱の一

つに位置付けさせていただいております。

本県では、インターネット上の3次元仮想空間メタバースを活用しまして、去る5月にプレオープンしましたとくしまバーチャルパビリオンにおきまして、本県のPR動画の掲載やDMVのバーチャル乗車体験といったコンテンツにより魅力を発信しております。先日は県内の中学生の方から、新聞の読者投稿欄に是非体験してみたいといった期待の声を頂いたところでございます。

また、8月には徳島市の阿波おどりの期間に合わせまして、講談社の人気アニメ「パリピ孔明」とのコラボによるバーチャルイベントを開催いたしまして、当日の様子がT w i t t e rに多数投稿されるなど大きな話題となっているところでございます。この効果を止めることなく補正予算案といたしまして、県が実施する秋の阿波おどりと連動したバーチャルイベントを開催し、リアルからバーチャル、バーチャルからリアル、双方向により国内外の交流を促進いたしますとともに、バーチャルパビリオン内に観光情報や物産紹介などのサイトのリンクも設けまして、バーチャルの世界から経済活動への波及効果をもたらす仕組みづくりに取り組むたいと考えております。

岡本委員

夏の阿波おどりに合わせたイベントが大きな話題になったということですが、簡単に言ったら具体的にどんな成果があったのか。簡単でいいですから。

奈良万博推進課長

夏の阿波おどりのイベントの効果についての御質問でございます。

8月に開催いたしましたバーチャルイベントは、前夜祭の8月11日から最終日の15日まで実施させていただきまして、バーチャルパビリオン内でアニメの主人公のアバターによる阿波おどりのステージを上演するとともに、県内の観光地の画像を背景にアニメキャラクターと並んで記念撮影ができるフォトスポットを御用意いたしまして、本県の魅力発信に取り組んでまいりました。

イベントによる成果といたしまして、開催期間中、とくしまバーチャルパビリオンは閲覧に必要なアプリがございまして、そのアプリの中でも常にランキングの上位に表示されて人気のワールドとなっていたところです。あわせて、リアルのイベントといたしまして、徳島駅前のアミコドームの演舞場で12日から15日までバーチャルパビリオン内を映し出すモニターを設置いたしまして、リアルとバーチャルの両面で阿波おどりを楽しんでもらう取組も実施させていただいたところでございます。リアルのイベントのアミコドームでは、4日間で約8,000の方が会場周辺に来場していただいたところでございます。

さらに、バーチャル、リアル両面のイベントに対し、メタバースを体験した方や海外の方からT w i t t e rで感想なども投稿していただきまして、数多くの方々に徳島の魅力を発信できたと考えておるところでございます。

岡本委員

正直な話、アニメとかバーチャルとか、我々はどうも。若い人やその道の人からはすご

いよかったよという話がいっぱい来ましたが、正直なかなか付いていけないんですけど頑張ってせないかなと思っておるんです。アニメも徳島県の代表するあれだから、しっかりできたらいいなと思っています。

実は、9月4日に徳島県人会近畿連合会というのがあったんですが、今近畿が全国の会長になっているんです。全国の県人会ということで二百数名来ておったかな、知事もえらい弾んでというか、頑張ってすごい盛り上がりだったんです。正に大阪・関西万博一色なんよ、プラス三好長慶なんよ。すごい盛り上がってましたので、そこでいろんな人に呼び掛けていく。大阪・関西万博は徳島が一番なのよと、一番関係しているのよということ、私も名刺を配って大分宣伝したんです。知事がかなり動いていたから大分分かってもらえたと思うんですが、やっぱりそのことが大事なんよね。何でこれを言うかっていうと、県会会はいろいろあるんですが、大阪・関西万博と徳島がそんなに密接だっていうのは十分分かっていない人もいます。知事が関西広域連合のチャーターメンバーは徳島なんですよということ盛んに言っていました。山西副委員長もそうですが、関西広域連合の中でも正にそれが本当にメインテーマなんよね。だから、奈良課長さん忙しいけれど頑張ってください。

補正予算については、予算は要求してください、どんどん要求してください。

古川委員

関西万博の関連でお聞きいたします。

テーマがゲートウェイとなっているんですけど、徳島に来てもらうということを中心に意識してやっていただきたいと思っています。お金を掛けているので、どう来てもらうかというところがやっぱり大事だと思います。いろんなものを見ても、おもしろそうだなというので終わってしまうパターンになっていくと想定されるので、お金を掛ける以上はやっぱりしっかり来てもらうということを、かなり踏み込んで掘り下げて考えていってほしいなと思います。

そのあたりは今どのようなイメージで取り組んで、どうやって本当に足を運んでもらえるかという、どういう工夫をしていこうというのか、そのあたりはどのような感じですか。

奈良万博推進課長

ただいま古川委員より、いかに徳島のパビリオンのほうに来ていただくかということについて御質問を……

（「パビリオンではなくて徳島県についてです」と言う者あり）

失礼しました。

本県のコンセプトといたしまして、万博はゲートウェイで、徳島全体をまるごとパビリオンに見立てるというコンセプトにさせていただいております、徳島に来ていただくことをパビリオンというような表現でコンセプトとして置かせていただいているところでございます。

先ほども説明いたしました部会でも、今その議論をしております、基本計画の骨子の中でも少し触れておりますけれども、例えば出展計画の未来技術のショーケースというところ

ここで書かせていただいておりますけれども、ゲートウェイとなる万博の会場で未来技術のショーケースに触れていただきまして、徳島県のほうでその技術をいろいろと見せていただけるようなイベントなどを開催してそちらに引き込んでくるということをイメージしていただくために、この基本計画骨子を策定いたしまして、それを基に、今部会で詳細の部分を検討させていただいている次第でございます。委員がおっしゃるように、徳島のほうに足を運んでもらう仕組みを部会でも十分検討していきたいと考えております。

古川委員

繰り返しになりますが、それだけではやっぱり、徳島がおもしろそうなことやっているんで終わってしまう可能性はかなり高いと思うんです。本当に、じゃあ行こうかとなると、やはりいろんな業界の中の意見を聞きながら、当然旅行会社の人の意見、またホテルの方の意見、現場でいる人はいろんな知恵を持っていますので、そのあたりもしっかり聞いて、どうやって足を運んでもらうかということを掘り下げていってほしいと思うんです。

基本計画の骨子が出て、基本計画、実施計画まで作った上でどこかまた業者に委託するというような流れで考えているわけでしょう。そのあたりをどうやって決めていくのか。業者に知恵を出させて具体化させるということを考えていると思うんですけれども、どういうふうを選定していくのかということと工夫していかないといかんと思うんです。どのように具体的に進めていこうと考えておられますか。お聞きしたいと思います。

奈良万博推進課長

古川委員より、計画策定の事業者の選定方法ということで御質問いただいたと認識しております。

現在、既に基本計画の策定支援ということで、事業者をプロポーザルで選定させていただきました。部会で検討する中に一緒に入ってください、部会の意見も聞きながら最終的な計画の策定の支援に尽力していただくように進めているところでございます。

古川委員

確かに、プロポーザルで、既に何千万円かの予算が決まっていたね。基本計画策定の時点で業者が入っていて、そこと連携しながらやっている。そしてまた実施計画も作る。実質的にこれを具体化するのはその業者がやるか別注するかは別として、そういうような形になる。ちなみに、どちらがやっているんですか。

奈良万博推進課長

ただいま古川委員より、策定事業者の御質問を頂戴いたしました。

朝日広告社と、JTBのグループのJTBコミュニケーションデザイン、それと博展というこの三つのJVの企業体に受けていただいているところでございます。

古川委員

そういうところとしっかり連携しながら、さっき言ったような形で、本当に足を運んで

もらう具体策をしっかりと形作って現実化して進めていってほしいと思います。よろしく
お願いします。

増富委員長

ほかに質疑はありませんか。

（「なし」と言う者あり）

それでは、これをもって質疑を終わります。

以上で、政策創造部関係の調査を終わります。

議事の都合により、休憩いたします。（11時54分）